

大学の世界展開力強化事業（平成 29 年度採択） 中間評価結果

大 学 名	東京工業大学
整理番号	AR03
事 業 名	健康・医療産業や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>コメント</p> <p>本プログラムは、ロシアのトップ大学との連携により、健康・医療産業や原子力・エネルギー産業をグローバルに先導できる研究者・技術者や、日露の懸け橋となる人材や将来の両国間の産業界を深く結びつけることができるリーダーを輩出することを目的としている。</p> <p>学生の交流数は小規模ながらも計画を上回っており、短期の派遣では研究内容に関するポスター・口頭発表を義務付けるとともに、受入では成果報告会を行うなど、短期留学を単なる「経験」に終わらせることなく、国際性・社会性・コミュニケーション力の醸成に加え、先端技術に関する専門性の高い学生交流を実施しており、評価できる。</p> <p>学生に対するサポートも、外国人学生については実務担当の専任教員と事務支援員による体制で、日本人学生が交流相手先のロシアに留学する際には専任教職員がオリエンテーションを行うほか、引率するなど、危機管理の面からも評価でき、受入・派遣ともにきめ細やかな対応により学生が安心して修学できる十分な環境が整備されている。</p> <p>広報活動に関しては、両国間で組織的・継続的な連携が認められ、国際化に関する情報の公開や成果の普及に十分努めていると言える。</p> <p>一方で、本プログラムは学生個人や研究室個別の資質・事情に左右される面が大きく、「健康・医療産業」「原子力・エネルギー産業」分野での共同教育体制の整備が十分とは言えない。高度な人材育成には、大学院レベルでの長期派遣・受入が重要であるが、それを継続できるシステムが未整備であることから、プログラムの継続性を担保することとともに、共同学位制度の構築等の検討が必要である。また、単位取得を伴う交流の実施や単位互換の実施も必要である。さらに、インターンシップは日露双方ともに「見学」の域を出ていないと言わざるを得ない。産業界への成果の普及という観点からも、可能な限りフィールドワークを実施することが望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の安定的な財源確保に努めるとともに、学内や関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的にプログラムを展開していくことを期待する。</p>	